

寺 報



第177号
発行人

伊 勢 徳
発 行 所

真宗大谷派 称念寺
知立市新地町西新地65

TEL(0566)83-8888

FAX(0566)84-1262

www.shounenji.com

印 刷
有限会社 クシロ印刷

親鸞が見た景色

先日、仕事で京都の東本願寺へ赴いた際、名神高速の京都東インターを降りた後に、山科を通り抜け、東山の高架道路から五条通りの市街地へ入るときに、遙か嵐山の方角だろうか、とても綺麗な夕日を目の当たりにした。京都は盆地なので、夕陽は西の山へと沈みゆく。古都の歴史ある風情に感傷的になったのか、運転中に茜色に輝く夕焼けを見つめながらふとこの美しい西日は、八百年前に親鸞聖人もその目できつと見たに違いない、全く同一の風景なのだと感じられた。不思議とこれ

は、単なる思い違いや誤解ではなく、真実の響きをもって私の内心深く鮮明に感覚された出来事であった。

その数ヶ月前のこと、共に仏教の学びを研鑽し合う友人らと、八坂神社の隣にある、円山公園の奥に位置する吉水の安養寺を訪ねていた。東山の小高い裾野にあるこの小さな寺は、今から遡ること約八百年、かつて法然上人が念仏の教えを説いたことで、「吉水教団」と呼ばれる小さな集まりが興った場所である。平易な念仏の教えを、僧侶だけでなく当時関白となつ

報恩講の日程

7:00~ おあさじ	21日(木) 御伝鈔(上巻)	7:00~ おあさじ	22日(金) 御伝鈔(下巻)	7:00~ おあさじ	23日(祝・土) 御俗姓拜読
宗祖・親鸞様の『ご絵伝』四幅は南余間に掛けられます。		8:00~	第1日中法要	8:00~	第1日中法要
18:00~	お初夜勤行	8:30~	法話① 北島 栄誠 師	8:30~	法話① 海 法龍 師
18:30~	法話 北島 栄誠 師	10:00~	大速夜(楽)	10:00~	ご満座(楽)
令和6年度の年会費は、郵便局から振り込んでください。 (注) 22・23日の両日に限って、玄関での「受付」で納付できます。		10:45~	法話② 北島 栄誠 師	10:45~	法話② 海 法龍 師
		12:00~	※法要後には「银杏ご飯」の御膳のお齋がごぞいます。会館にてお召しあがり下さい。		

※仏具のおみかき
15日(金)
午前9時〜

※おつとめと
奏楽の練習
16日(土)
午後6時〜

※お華講(仏花)
17日(日)
午後5時〜

仏花の『芯』は松を
充当します。季節の花
を添えます。

※お莊嚴(お華束)
19日(火)
午前9時〜

五色幕を掛けます。
高張提灯、玄関幕を
吊るします。

※お浚え勤行
23日(祝・土)
仏具の片付け後
午後2時〜

た九条兼実や武士、遊女や芸人、陰陽師の詐欺師であった阿波介に、天野四郎という盗賊の首領まで、それぞれの人生の糧として一緒に聞いていたと云う。この草庵の参詣帰りの道すがら、私の前方には、眼下に広がる京の街の西側にある山々があった。

かつての親鸞はこう考えた。お釈迦さまの教えのとおり、人間存在の苦悩、つまり不満や怒りや悲しみといった不幸の根本的な要因は、自身の煩惱にある。思い通りにならない人生を、思い通りになることを願う煩惱そのものが問題であったのだ、と。煩惱さえ片付けば、老病死という生涯の不安材料も含め、人生の諸問題に決着がつく。かくして自身の煩惱を消滅すべく、比叡山での修行は二十年にも及んだが、減ることすらない欲望に深く悩まされた末、建仁元年は二十九歳当時、延暦寺を出て吉水の法然門下に加わった。三十五歳で流罪に遭うまで師に遇い得たこの

地から、親鸞が夕方にいつも見ていた、その同じ景色だと実感したのだ。

私も長年、経典の言葉を通して仏の教えを聞いてきたが、大谷派という教団に身を置いた自身にとつて、宗祖としての親鸞は歴史上の偉人であり、その深い学識と真摯な姿勢も到底及ばず、要するに「私とは違うすごい人や」と崇め上げてきた。だが、繰り返しその文言に触れるうち、幾度も我が人生の実際の出来事に置き換えては、「人間とは何か」との仏教の根幹が、心底「本当のことであった」と薫習されてきた。そして親鸞も、私と何も変わらない一人の人間として、自己都合や人間関係に翻弄されつつ、良くも悪くも人と出合い悩み苦しみ、そして老い必ず死すべき人生

を、日々新たに学びつつ生きたのだと共感した。

無論のこと釈尊以来、「阿弥陀に照らされた一人として生きる世界」の確かめは、二千五百年もの間、数々の優れた先達が繰り返し検証し、その結果として大乘仏教の歴史である『正信偈』が伝え残された。けれども、人間の努力や優しさ、感謝や反省といった「自力」の可能性が捨てきれなかつた私にとつては、荘厳された「高僧の説を信ずる」というだけでは押さえ切れず、迷いや失敗だらけの自身の歩みに引き当ててしか、真実教への疑念を払拭することができなかつた。様々な局面で、親鸞ならこう考えただろうかと、自問自答しながら生きてきた、その危うくも既に死んでいたかも知れない人生

の半世紀が、私にとつて必然的な軌跡であった。

人は孤独な存在である。それぞれ違う姿形と性格だけでなく、生い立ちやその無限に広がるご縁の背景をして、それも互いの世界をわかり合うことは不可能だからである。人生には様々に出会いがある。血の繋がった家族との出会い、共に暮らす夫婦の邂逅、友人や職場の同僚との巡り会い、幼馴染や趣味などで意気投合する仲間もある。また年齢や経験の多少で、先輩後輩にも必ずご縁がある。関係性のなか私達は皆、共に支え、また支えられ生きてはいるが、その内面では、自己を完全に理解し寄り添ってくれる人など世界中に一人も存在しないため、誰しも自分だけの精神世界を孤高に生きる他はない。ふとした瞬間にも虚しさや、日々蠢くあらゆる世事から自分だけ取り残された感覚すら在るだろう。

私が人生を懸けて教わったことは、そのなかで唯一、異

報恩講

11月21日(木)午後6時	法話	北島栄誠師
11月22日(金)午前8時・10時	法話	北島栄誠師
11月23日(土)午前8時・10時	法話	海法龍師

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。



報恩講の法要後には会館にてお斎「银杏ご飯」の御膳を召し上がりください。

なる世界を一つとして共有できるのが、阿弥陀を介在した世界だということである。仏法を通して出遇う法友は、その時々境遇や距離や様々な障壁から二度と会うことがなくとも、その心が通じ合う。たとえ友が罪を犯したとしても、非難せず業縁として受け止めたい。更には、私が深く尊敬する聖徳太子や親鸞も、親鸞にとつての七高僧同様、出会うべき縁がなくとも、親友との時間の如く、何度も語り合い、想いを吐露し、信頼しあつてきた対等の関係にあるのだ。だからこそ、これからも、世間での評価や比較、或いは他人の正義や、その価値基準と非寛容をして、自分のことを勝手に決めつけられることにどれだけ傷つき苦しもうとも、そこに一縷の光が失われることはない。

先日ネットニュースで、ガザの人々が戦争による殺し合いの惨劇でなく、パン一つ入手できず「餓死するしかない」と叫ぶ混沌とした映像を見

て、心が痛み涙した。けれども、日々の目の前の関心事と個人的な幸せをして、浅はかにも悲嘆はすぐに消え去つた。プーチンやネタニヤフだけでなく、私達は常に、自分の主観で世界と人を見誤る。二〇二七年には、中国による台湾への武力侵攻が予定されている。国内の経済低迷にワクチンの闇、温暖化も進む暗澹たるこの時代に、私達は一体何を大切にし、どう覚悟をして生きるのか、そうした命題では政治やメディア、世間の常識が最も危うい。改めて「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え」(道綽『安樂集』)との至言をいただき直すところに、遙か十却の呼び声が聞こえてくる。

「文章 若院」

◆除夜の鐘

大晦日 午後11時45分頃

◆修正会

元日(祝・水) 午前0時

◆講師紹介

報恩講話法話…北島栄誠師

若院と同じ昭和48年生まれ、京都の大谷高校では共に仏教を学び、現在は新潟県長岡市の長福寺住職をされている北島さんが初めて来寺されます。京都の本山・東本願寺では教化教導をされ、地元でも多岐に活躍されておられます。

※報恩講最終日の法話は昨年に引き続き、海法龍先生(横須賀市・長願寺住職)にお願ひしていただきます。色々なことが難しいこの世相に、今どなたも共にご聴聞を。

若院の伝道掲示板

- ・ 頑張るほど 孤独になりゆく 自己中心
- ・ いつ死ぬか あなたも私も わからん命
- ・ 身勝手な都合とはいえず 煩惱消えず
- ・ 必ずある 人を責めるとき 私の「我」

◆娑婆の縁尽きて

山口久美子	96	西町	8	21
田島 浅弘	89	内幸町	31	
早川美智代	84	山屋敷	9	4
野瀬 竹男	90	安城市	4	
加藤 義仁	82	広見	7	
森下登志夫	57	長篠町	13	
小野 永峰	73	西新地	13	
古橋 民雄	90	弘法町	19	
山口 雅嗣	70	内幸町	20	

◆第20組聞法会

1月9日(木) 午前10時

於…称念寺本堂

歌のライブと法話…

白鳥 ちあき 師

瀬戸内は周防大島からは、シンガーソングライターでもある、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の莊嚴寺より白鳥さんが来られます。自身に難病を抱えながらも、素敵な歌声を通して伝道しておられる女性住職さんです。どなたも参詣可、参加費500円。

◆春彼岸法要

3月20日(祝・木)

午前8時・10時

法話 沙加戸 弘 師